

抗リン脂質抗体症候群における検査方法の標準化と 血栓症発症メカニズムの解明

著者	熊野 穰
学位名	博士（薬学）
学位授与機関	北海道医療大学
学位授与年度	平成26年度
学位授与番号	30110乙第109号
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00010253/

平成 27 年 2 月 27 日

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査： 飯 塚 健 治



副 査： 家 子 正 裕



副 査： 小 林 道 也



副 査： 増 田 園 子



このたび 熊野 穰 にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行い
下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

抗リン脂質抗体症候群における検査方法の標準化と血栓症発症メカニズムの解明

2. 論文要旨 (別 添)

3. 学位論文審査の要旨

活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) は、抗リン脂質抗体症候群 (APS) の診断において重要な役割を果たす臨床検査項目の一つであるが、その測定結果が国内外で使用されているキット間でばらつきを持つことが知られている。本研究は、APTT 測定試薬の構成要素である活性化剤とリン脂質に注目して、これらの違いが測定結果に及ぼすか否かについて検討を行うと共に、APS の病態に深く関わっていると考えられている抗リン脂質抗体 (aPL)、中でもループスアンチコアグラントの検出に最も有益であると考えられる測定試薬の構成について検討を行い重要な知見を得た。一方本研究では、APS で発生する血栓塞栓症の発生機序の一端を *in vitro* で解明することを目指し、細胞表面に存在する凝固関連因子に対する aPL の影響を培養内皮細胞を用いて検討した。その結果、aPL を添加した細胞では、凝固抑制因子であるトロンボモデュリンの遺伝子発現が低下する事を見だし、APS における血栓症の発症が、これらの内皮細胞表面に存在する凝固関連因子の遺伝子発現の変化と関連している可能性を示した。

論文は、予備審査委員会の意見を参考に適切な修正が加えられており、その内容は博士 (薬学) の学位を認定しうるものと判断される。

4. 最終試験 (学力の確認) の要旨

博士論文研究発表会における発表内容、発表態度、質疑応答、および口頭試問における適切な回答から、博士 (薬学) の学位取得に十分な学力を有するものと認める。

以上の結果 熊野 穰 は博士 (薬学) の学位を授与する資格の

ある

ものと判定する。

~~ない~~

以上